

Small interfering RNA against CD86 during allergen challenge blocks experimental allergic asthma

田尻, 友香里

<https://hdl.handle.net/2324/1654760>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



(別紙様式 2)

氏 名	田尻 友香里			
論 文 名	Small interfering RNA against CD86 during allergen challenge blocks experimental allergic asthma			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	福井 宣規
	副 査	九州大学	教授	山崎 晶
	副 査	九州大学	教授	古江 増隆

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

アレルギー性炎症の過程で、CD86 と CD28 の結合はナイーブ T 細胞のプライミングにおいて重要な役割を演じている。しかしながら、この経路がエフェクター相においても重要であるかははっきりしていない。今回申請者は、抗原特異的 Th2 細胞の再活性化における CD86 の関与について検証を行った。このためまず、骨髄由来樹状細胞 (BMDC) に CD86 siRNA を作用させると、LPS 刺激で誘導される CD86 の発現が低下し、その結果抗原特異的 Th2 細胞の活性化能が低下することを確認した。そこで、抗原で感作曝露した喘息モデルマウスに、CD86 の siRNA を気管内投与したところ、気道の抗原提示細胞における CD86 の発現が低下し、好酸球の集積や気道過敏性が抑制され、血清中の抗原特異的 IgE の産生や気管支肺胞洗浄液 (BALF) 中の Th2 型サイトカインの産生が障害された。このことから、曝露相で CD86 発現を抑制することで、抗原特異的 Th2 細胞の再活性化が抑制されることが示唆された。以上の成績はこの方面の研究に新たな知見を加えた意義あるものと考えられる。

よって、調査委員合議の結果、最終試験は合格であると判定した